

## 行仙宿小屋番・南奥駆道・補給路の補修

実施日；2014年5月3日(土)・晴〜4日(日)・晴

参加者；川島 功・中前 偉・濱野兼吉

NHK和歌山；近藤ダイレクター

湯川一郎(4日帰り)

国道42号の高校前バス停留所付近で、中前さんに拾ってもらい沖崎さん宅にて荷揚の荷物を受取り、ステーションホテルで待つNHK和歌山のダイレクター近藤さんに乗せ、行仙宿補給路登山口へ向かう。

車中にて中前さんより行者になった経緯や修行についての話を窺う。寒行の那智四十八滝行や葛城修験等の話を聞きながら、行者の修行の大変さを改めて認識する。

補給路登山口では、山菜を採るために先発した川島代表が待っていて、代表より近藤さんの紹介と今日、明日の作業について説明を受け、食料・缶ビール1箱、補修用鎖等を手分けして背負子に付け、近藤DLにもビール半箱を持って貰い行仙小屋に向かって出発。

登り初めてすぐ水場にて水を飲む冷たくておいしい。ここには、ネコノメ草があつてチラホラ咲き始めたばかり、一ヶ月前は冬枯れだった木々に、新緑が蘇り鮮やかである。

途中休憩所で一休みし周辺の山々を眺めると、山腹の岩場近くには、アケボノツツジのピンクが鮮やかに新緑の中に染えている。笠捨山頂はまだ冬枯れのままだが、この連休が終

ればすっかり緑に覆われるであろう。

小屋に到着し、お堂にて中前さん導師で勤行と般若心経をとなえ、登山者の峰中の安全と今日明日の作業の祈願をする。

中前・近藤さんは水場へ水汲みに、川島さんと私はコシアブラを採りに補給路を戻る。今年はコシアブラの新芽が丁度よく生長し、食べ頃である。

午後からは、行仙岳山頂から怒田ノ宿址へ下る奥駆道の道普請。行きは捲道を通って現場に着くと、十津川村が立てた世界遺産奥駆道石柱標識が倒れている。四人がかりで何とか石柱を立て直す。木で拵えた階段の支柱が霜柱で浮いたところを大玄翁で打ち付け、支柱と桟木の番線が腐食している箇所は新しい番線に取り替える。階段の朽ちた桟木を新しく取り替え、登山路が雨で谷水として流れ下り土を流失させないために、水の流れを変える溝を掘ったりして修復する。

近藤さんは作業の様子を撮影しながら、私達の作業を手伝う。この付近は無線の中継基地を作った際に、山頂付近の木を伐採し土地が乾燥したことで、植物が生えず森の再生が行われていない。この付近の奥駆道を守るためには、植樹など早急な対策が必要である。

作業は順調良く進み予定より早く終了、小屋に戻る途中で、行仙岳山頂付近には、コシアブラの木が二本あるとのこと、手分けして探索し三本の木を確認し、山菜材料にリョウブの新芽を少し採り小屋に戻る。

囲炉裏と竈に火をおこし夕食の準備にかかる。児嶋さん作製のロケット・ストーブは、今までの煙さがなく小屋の中心にいても快適で、薪も順調に燃える。大江加代子さん寄付の竈も順調に燃えて釜の湯がすぐ沸く。

今夜泊まりの皆さんが続々と小屋に着く。長野の速渡さん夫妻が左官用の小さな練箱等を持って来られる。笠捨山頂に建立した道祖神の補修とお参りに見えたらしい。

大阪のグループ(株西島製作所5人)の久慈さんからご飯を一緒に炊いて欲しいと米4kgを託り、夕食を共にするため、タラの芽・リョウブ、コシアブラのハカマ取りを、夕食の天ぷら用の野菜刻みは、速渡さんの奥さんにお願ひする。私は小麦粉を練るが、大阪グループの佐々木さんから練り方があまりにも下手なので、見かねて練ってくれ衣の付け方まで教えられ、揚げてくれる。

準備が整ったところで、川島代表から山彦ぐるーぷの刈峰行から始まり、行仙小屋、管理棟建設、南奥駆道の再興等についての紹介、さらに五鬼助さんが前鬼・小仲坊を守ってくれている。みんな支え合って、兎に角この南奥駆道を歩いてもらいたいと挨拶。

山彦の差し入れの缶ビールで乾杯。山菜のてんぷらを肴に来宿者の自己紹介を含め、夕食交流会は楽しい宴であった。

終了間際に八経からやって来た青年が大きなザックを背負い入ってきた。当初予約を含め8名の予定が、18名の来泊者となった。

場が盛り上がるが早朝出立者も多く、管理棟に移って大阪グループのおでんで2次会が催された。

翌4日は5時半に起床し小屋に入ると、大半の人が出発した後で、笠捨山往復の大阪ぐるーぷが残っているのみ。

囲炉裏で火をおこし、七輪に炭を入れ朝食の準備にかかる。朝食はアジの開き、新タマネギのサラダ、沢庵、インスタントの味噌汁。

8時に新宮から財務省関連企業に勤務の湯川さんが、缶ビール一箱・清酒1升を背負い登ってくる。続いて男性2名、女性1名の京都の学生が小屋に見え、コーヒーを出して話を聞き、全員で記念写真。近藤さんはインタビュしてビデオカメラをまわす。

今日は補給路・中の峪で崩壊している所に鉄筋を打ち、間伐材で土止めをして補修する作業である。まず間伐材と鉄筋を現場に運ぶ。十津川村有林の間伐材は無償提供して頂き、昨秋、皆ボランテイアで運搬・皮剥ぎ、小割りした材で、鉄筋の調達は大変である。金額的にかさみボランテイアで活動している山彦には財政的な負担が大きい。竈・鉄筋等は、電源開発(株)のご好意により混載でへり荷上げして頂いた

川島、中前さんは、現状より一段下に鉄筋を大ハンマーで打ち込み、間伐材を積木にして積み重ね、その間に石を入れて壁を作っていく。私と湯川・近藤DLは、石や間伐材を運び、土止めの石や土を入れ壁面が積み上がっていく。私達の作業の様子を近藤さんが時折ビデオカメラで撮影している。チームワークよく作業は順調に進む。作業はきつい体が動かし汗をかくことは楽しい。

奈良の乾、佐藤、尾鷲・賀田の榎本さんが見え休憩になる。小屋に帰りコーヒーでいっぶく。

佐藤さんは小屋に残り小屋の掃除や夕食の準備。私達は現場に戻り作業を再開する。乾・榎本さんが加わり更に作業の進捗状況は良くなる。駄洒落も飛び交い仕事はきつい、場が和み楽しみなが午前中の作業を終了。

小屋に戻り昼食はレトルトカレーにサラダ。昨日持経小屋から連絡のあった膝の故障をした青年を青木さんが同行。青

年は池原15時前発のバスに乗せたいとのことで、中前さんの車で送ることになり、中前、近藤、青木さんと青年の4名は、昼食後早めに下山することになる。

午後は引き続き補給路の補修。私は小屋に残り食器を洗い熱湯で消毒してから作業に加わる。14時半頃に石や土を入れ復旧した現場は、以前より広くなり通りやすくなる。

時間も早く小屋下の補給路の栈木をやり替を行い、本日の作業は終了。

私と湯川さんは、午後3時過ぎ小屋のゴミを背負子にのせて下山。

### 寄贈品

（株）西島製作所：米4kg+お菓子。速渡：漬物+土産。  
湯川：缶ビール一箱+清酒1升。

（濱野 記）



段差補修後、行仙岳山頂にて



管理棟で大阪グループと懇親会



中の峪ガレ場改修作業(54)

